

令和４年度（2022 年度） 第１回 健康すいた２１推進懇談会 議事要旨

開 催 日 時	令和４年（2022 年） 9 月 27 日（火）午後２時 10 分から午後４時まで
開 催 場 所	オンライン（zoom）
出 席 者	岡本 玲子委員長、中村 清美副委員長、千原 耕治委員、三田 康子委員、 山下 節代委員、谷 将行委員、円野 久子委員、廣瀬 志保委員、山本 保治委員、 山本 雅子委員、福島 一美委員、今泉 まり委員 (以上 12 名)
欠 席 者	新居延 高宏委員
議 題	1 開会 2 委員の紹介及び市の出席者紹介 3 委員長の指名 4 案件 (1) 健康すいた２１（第３次）の進め方 (2) 健康すいた２１（第３次）の概要 (3) 健康すいた２１（第３次）の取組状況 (4) その他 ・重点とするターゲット層への効果的なアプローチについて
資 料	資料１ 健康すいた２１（第３次）の進め方について 資料２ 健康すいた２１（第３次）概要 資料３－１ 健康すいた２１（第３次）進捗確認シート（行政） 資料３－２ 健康すいた２１（第３次）進捗確認シート（関係団体） 資料３－３ 健康すいた２１（第３次）評価指標一覧 参考資料１ 健康すいた２１推進懇談会委員名簿 参考資料２ 健康すいた２１推進懇談会設置要領

発 言 概 要

(開会)

○開会あいさつ

○委員及び職員紹介

「健康すいた２１推進懇談会設置要領」の第４条に基づき、岡本 玲子委員を委員長に指名、中村 清美委員を副委員長に指名。

(１) 健康すいた２１（第３次）の進め方

●委員長

健康すいた２１推進懇談会は、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことで健康の保持・増進を図ることを目的に、健康づくりの取組に関して関係機関が連携し、必要な意見交換を行うために設置されています。

委員の皆様におかれましては、市民の健康を守るために、お力添えをいただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは議題（１）について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

【資料１に基づき事務局から説明】

●委員長

何か御質問、御意見がありましたらお願いします。

(質問なし)

(２) 健康すいた２１（第３次）の概要

●委員長

それでは議題（２）について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

【資料２に基づき事務局から説明】

●委員

資料２裏面「分野２ 食べる」の取組目標「食塩摂取量を控える人の割合を減少」とありますが、これは、「食塩を控える人の割合が減る」という意味でしょうか。それとも、「食塩を控えるよう指導された人の割合が減る」という意味でしょうか。

○事務局

正しくは、「食塩を多くとる傾向がある人の割合」が減少であり、記載が間違っております。資料を

訂正いたします。申し訳ございません。

●委員長

資料２裏面の各分野に「取組による 2026 年度までの成果目標」とありますが、これは、2026 年度には記載のような状態になっているという意味でしょうか。

○事務局

おっしゃるとおり、2026 年度の段階で市民の皆様にこのような状態を達成いただきたい目標を掲げております。

(3) 健康すいた 2 1（第 3 次）の取組状況

【資料 3－1～3－3に基づき事務局から説明】

●委員

資料 3－1、27 ページ、17 番の取組「のびのび子育てプラザ事業」について、市の事業として実施しているということでしょうか。歯科医師会から講師を派遣している事業だと思いますが、歯科医師会では別の事業として認識していたため、またのびのび子育てプラザへ確認します。

○事務局

のびのび子育てプラザからは、このような取組を実施していると聞いております。

●委員

「分野 2 食べる」について、幼児期や学童期、大学生に向けては様々な取組をされていることが分かりますが、自分で食を選択していく食の自立に向けて重要な時期である 16 歳から 18 歳の高校生への取組はあるのでしょうか。

○事務局

16 歳から 18 歳までの高校生は、家庭の中で食事をする人が多いことから、家庭の中で食習慣の形成を身につけていく乳幼児期からの世代に含まれるという認識で次世代に含んでおります。

しかし、現状、この世代についての取組は不十分であり課題と感じているため、機会を見つけて働きかけたいと考えております。

●委員

高校生に向けての取組が見受けられなかったと思いますが、市内にも高等学校があると思います。全員が吹田市民ではないと思いますが、次世代ということで、ケアしていただけたらなと思います。御検討よろしく申し上げます。

●委員長

健康すいた 2 1（第 3 次）では、ライフステージを次世代、就労世代、高齢世代と大きく 3 つに分

かれています。次世代であれば妊娠・乳幼児期から高校生まで、就労世代であれば高校卒業から64歳までと範囲が広く、それぞれの年代への取組が見えにくくなっています。そのため、次世代をさらに2つに分けたり、就労世代を若い就労世代と熟年の就労世代の2つに分けて点検すると、どの辺りが手薄で、どの辺りをもう少し充実する必要があるのかが見えてくると思いますので、検討してみてください。

もう1点、資料3-1や3-2の取組を見ると、分野別やライフステージ別といった視点では示されていますが、重点ターゲットへの取組については、どの事業が該当するのか不明瞭であると感じました。

健康無関心層をどのように見つけ、どのようにアプローチするのかについて点検しなければいけない事業も多くあると思いましたので、それぞれの事業が、重点ターゲットに対して、どのようなアプローチをしているか、あるいは、今後どのような課題があるかということの一つ一つ見ると、これからの活動の推進に役立つのではと思います。

●委員

健康無関心層や何らかの理由で取組ができない層に対しての歯科健診事業について、課題であると感じています。30歳から成人歯科健康診査を実施していますが、高卒から30歳までの間は健診がないため、要望させていただいているところです。

また高校生への取組について、歯科医師会としては、高校は市ではなく府の行政区分であるため歯科健診ができず、検診結果についても把握が難しい現状です。対応について今後検討していかなければならないと感じているところです。

オーラルフレイルについて周知しているところですが、なかなか広がらないことも課題の一つと考えております。日本歯科医師会では2025年に50%の認知度を達成する目標を掲げて、働きかけている現状です。

●委員

継続している事業として、小中学校での授業で、たばこの害や薬物依存に関連してお酒についても話しています。たばこについては力を入れており、「そもそも吸わない」という方向で生徒に啓発していますが、お酒についても、様々な機会が生徒が触れる可能性があり危険も伴うため、啓発を続けていきたいと思っております。たばこは次世代だけでなく、就労世代に対しても、年2回オール薬剤師禁煙ひと声運動期間を設け、各薬局で啓発を行っています。

また、先ほど食についてお話がありましたが、幼少期からの食事・睡眠・運動は骨粗しょう症やフレイルとも関連があり非常に重要なため、今後、学校保健の中で啓発していければと思っています。

●委員

体を動かすことを目的にコミュニティセンターで100歳体操を実施しています。高齢者の参加が多いため、外に出るまでのハードルが高いですが、参加されている方を見ると、かなり効果を感じます。

体への影響だけでなく、参加することによって人とつながりが持てるため、心への影響もあるように思いました。

●委員

地域の事業者向けに毎年定期健康診断を行っており、令和3年度は78事業者に対して、受診者数が805名でした。今年度は、現時点で78の事業所、受診者数が717名となっております。

また吹田産業フェアでは、健康に関する講演会や健康チェック体験、血管年齢測定、自律神経チェック等等のコーナーを設け、たくさんの市民に参加していただきました。こういったイベントはたくさん人が集まっていたのかなと感じております。

重点ターゲットとして、健康に関心があるが多忙等何らかの理由で取組ができてない層とありましたが、商工会議所では創業された方がこれに該当すると思います。最近、「創業したい」という相談が増えていますが、創業されて数年は多忙のため、なかなか健康診断を受診できていないと感じます。また創業すると、医療費控除ができないため、何らかの保障を検討し、健康診断を受診してもらえよう考えたいと思っています。

●委員長

創業される方が多いということです。創業時に健康経営を考える機会を与えるために、パンフレットを渡したり、YouTube等で周知ができると良いのではと思いました。

●委員

昨年度ははつらつ元気レシピ集のレシピ提供や、介護予防栄養教室、フレイル等予防栄養相談等、高齢者中心の事業が多かったと感じています。先ほど御指摘のあった子供への食育についてはなかなか難しく、特に高校生から大学生に対する取組が不十分であることは課題であると捉えています。

数年前に、ある高校の家庭科の先生が熱心だったことから、保健所の栄養士と調理実習に参加させてもらったことがあります。吹田市は、栄養教諭が小中学校全てには配置されていませんが、やはり小中学校できっちり食育ができれば、自立する年齢である高校や大学でも、引き続きしっかりした食生活が送れるのではないかと感じています。

また、健康無関心層への取組として、10月にイオンで、吹田市健康づくり推進事業団と共同で栄養相談のイベントをします。高齢者の方の参加が多いと予想されますが、スーパーで実施することにより、健康無関心層である若い人たちの参加も見込めるため、積極的に働きかけたいです。

●委員

各学校のPTAは、給食試食会の運営は行いますが、内容まではなかなか介入できないところがあります。内容については、保健給食室へ委ねる部分が大きくなりますが、保護者が知りたいことと市の講演する側が伝えたいことがマッチしてないと感じることがあります。過去の試食会のアンケートにおいても、給食の量に関する設問等があり、目的が不明瞭でした。アンケートを実施することだけが形骸化しており、試食会の本質的な部分については検討できていないと感じました。また、試食会に関心の無い保護者にも興味を持ってもらうための仕掛けづくりも必要だと思います。試食会を実施できていないPTAもありますので、今後、先生に声をかけるところから始める必要があります。

3年後から始まる中学校給食について、中学校の先生に給食に関する指導が可能なのか懸念しています。給食がただの栄養補給のための食事という指導では足りず、給食を通して食べ方の問題や、何をどのくらい食べれば良いのか指導する必要があると思うため、市や親から発信できればと思います。

●委員

学校体育施設が使用できないため、地域の事業が実施できない状態が2、3年続きました。令和3年度からは徐々に事業を開始した地区もありますが、時期によっては中止もありました。今年度の市民体育祭についても各地区実施の方向で進めていますが、33校区中13校区は中止となっています。

地区によって事業実施の有無に差はありますが、悩みながら進めているところです。来年度は、全地区で事業ができるよう、皆さんと協力していきたいと思います。

●委員

事業団は法人化して今年で30周年を迎えました。今までみんなの健康展を始め様々なイベントや、講演会を実施しましたが、健康意識の高い方の参加が多い事業が中心になっていました。そのため今後は、計画の重点ターゲットである健康無関心層が、自然と健康になれるような取組についても実施すべきと考えています。その一つとして、2か月に1度、ディオス北千里で実施されるマルシェにおいて、千里金蘭大学、カーブス、ポーラ等と連携し、ブースを設けて、健康啓発を行っています。4月は自分の歩き方を測定できるウォークラリー、6月は疲労度測定、8月は足型測定を実施し、20～30人の方に参加いただいています。買物のついでに、楽しみながら自分の健康を考えるきっかけになるような取組をめざしています。また10月には秋祭りがあり、高校生や大学生の発表があるため、応援に来る親世代への啓発として、自身の健康の気づきになるような一言アドバイスを実施する予定です。

令和3年度の市の取組状況を聞いて、市と事業団で類似している事業がありました。同様の取組を複数回実施することも必要ですが効率も考える必要があるため、市と連携して取組を行わなければいけないと感じました。

最後に、10月にイオンで実施する栄養相談でアンケートをとる予定ですが、先ほどのお話でもあったように内容を見直す必要があると思いました。今までは、事業に参加した感想を聞くようなアンケートでしたが、現状の課題等を考慮した上で事業内容を検討し、参加者が感じている課題が把握できるアンケートをとり、次の事業へつなげられるようにすべきだと思っています。

●委員

すいた健康サポーターや、介護予防推進員、100歳体操等の運営などのボランティアをしています。講座の運営を手伝う機会もありますが、男性の参加が少ないので、関心が無い方への効果的な啓発が必要だと感じています。

また、個人的に感じていることですが、遊歩道をウォーキングすると喫煙者を見かけることがあります。過去には市報でスモークフリーについての啓発があり、歩道にもポスターが設置されていますが、まだまだ浸透していないと感じるので、啓発を続けてほしいと思います。

●委員

資料を見て、市や関係団体の取組の多さに驚きましたが、一市民として取組や内容について知らないこと、分からないことが多くあると感じました。これだけの取組をしているにも関わらず、市民が知らないではもったいないので、アピールの仕方を工夫する必要があると感じました。

●委員

高校生や大学生などの若い世代の取組が不十分であることや、重点ターゲットである健康無関心層に視点を置いた点検を検討すべきであるというような御意見がありましたが、取組の点検をどのような視点で進めるかについて、私の経験から申し上げますと、まずは、高校生、大学生、社会人1、2年目までの世代を特に注意深く見る必要があると思います。

高校から自立に向けて一歩踏み出し、大学では一人暮らしが増え、自立に向かうスピードが増します。しかし自由度も増すため、自分の好き勝手に生活が送れる時期です。また、社会に入ってから1、2年目は、同世代がいない緊張した中で仕事に慣れていかなければならないので、どうしても日常生活が自分らしく組み立てにくい時期です。そのため、どのような刻み方で点検するか難しいところではありますが、次世代の終わりである高校生から新社会人である就労世代の初めまでを注意深く見る必要があると思っています。また、平成27年の大阪版健康・栄養調査からも、20代と30代では生活を送る中での食や健康への意識が違うという結果が出ています。また、30歳代は晩婚化が進み、出産年齢が遅くなったり早くなったりと、様々な生活スタイルを持つ方がいることが大阪版健康・栄養調査から分かりましたので、30歳代にも注目して点検できれば良いと思いました。

高校生へのアプローチについては、中学までは市、高校からは府という行政区分の違いによって、なかなか情報が得られず難しいところであり、実際、高校での健康づくりの取組に関しては、熱心な先生に頼ってしまうところがあります。経験談ですが、解決策としてたどり着いたのは、エリアごとの学校長の集まりである「校長会」にアプローチをすることでした。校長会に直接アプローチすれば、多くの高校に様々なことが伝わり、情報も得やすいと感じました。トップダウンで取組を行うことが効果的であることは、たばこ対策でも証明されています。そのため、トップの学校長を抑えることが高校生へのアプローチでは大事だと思います。

先ほど給食試食会の話がありましたが、私自身がPTAの一員だった頃に、アンケートについて同じようなことを感じた経験があります。「やりましょう」は共有できていても、「何のためにやるのか」が、共有できていないように感じました。PTAも毎年委員が変わるため、一足飛びに変えることはなかなか難しいところがありますが、目的の共有といったところから改革が進められれば良いのではと思いました。

最後に、先ほどお話のあった北千里のマルシェで、千里金蘭大学は栄養指導を行いました。元気な高齢者が非常に多いと感じました。健康のために様々なことを実践されていたため、講演会などの場でお話しする機会があっても良いのではと思う程でした。

(4) その他

- ・重点とするターゲット層への効果的なアプローチについて

●委員長

最後の議題になりますが、重点とするターゲット層への効果的なアプローチとして、無関心層、あるいは関心があるが多忙等の理由でなかなか実行できない方に対しての働きかけとして、皆様から御意見をいただけないかと思います。就労世代、あるいは閉じこもりがちの高齢者等が想定されますが、御意見や、情報提供、成功事例等がありましたら御発言をお願いします。

●委員

歩数によってポイントが貯まり、現金等の特典がもらえるアプリがありますが、市でもこのような取組をしてはどうかと思いました。商工会議所としても、事業者と市民との繋がりを意識した取組ができればと思っています。

●委員

イベントや講演会は女性の参加者が多く男性は少ないので、家族や友人が誘って参加につなげられれば良いのではないかと思います。

●委員

夫婦でファミリーヨガに通っていますが、最近は若い方の参加も増えています。参加につなげるためには、やはりロコミなどが良いのではと感じています。ウォーキングも女性が多いので、夫婦と一緒に参加するなど声をかけていくことが大事だと思います。

●委員

先ほど報告のあった市内スーパーでの情報発信について、スーパーであれば健康関心層も無関心層も来られるため、良い着眼点だと思います。また、健康無関心層が多く利用するコンビニなどの場所でも実施できればより良いと思います。

●委員長

吹田市は大阪府や国と比べて非常に健康の指標が良いということでしたが、それは吹田市の平均値ですので、地域別や業種別といったもう少し細かな分析を行う必要があると思います。情報が入りづらい、自分から情報を取りに行くことが難しいという理由で取り残されている方が多い地域や、事業に参加する方が多い地域など様々な特徴があり、そこに合わせたアプローチを行うことが重要です。そのためには細かな分析が必要であり、分析を行ってターゲットとなる層がまさに今回の計画の重点ターゲットにもなると思います。

●委員長

以上で本日の案件が全て終了となりました。皆さん、言い残されたことございませんでしょうか。それでは、その他として、事務局から何かあればお願いいたします。

○事務局

今回の会議につきましては来年の2月頃を予定しております。日程等決まり次第、また改めて御連絡をさせていただきます。

次回からは、分野ごとの取組について議論をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(閉会)